

おお大勝利

令和3年度 山東サッカー部報第1号 (5月14日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

昨年度最終号にて、顧問今野の残留確率がかなり低くなっていることをお伝えしましたが、今こうして今年度第1号を書くことができいております。そう、残留いたしました。これで山東16年目。やる気のある…部員、応援を惜しまない保護者、支援を惜しまない後援会(OB会)を擁する山形東に今年もかかわることができてうれしく思います。皆様、よろしく願いいたします！

さて、2020年に引き続き、2021年もコロナに振り回される日々です。4月11日から始まる予定だった山形県リーグ(Yリーグ)は山形県独自の非常事態宣言により延期となり、4月末までシーズン開幕はお預け¹。そして、4月末に開幕し、村山地区リーグ(Mリーグ)と地区総体が終わったと思ったら、再び県総体まで公式戦ができない状態に。選手たちは感染防止に努め、練習中はマスクを着用してゲーム等を行っています。変異株の感染力はあなどれず、高校生にも容赦なく襲ってきています。実際に、山形県の高校サッカー部員にも感染者が出ており、「迫ってきた」感があります。「感染者がいつ出てもおかしくない」「感染者が悪いわけではない」とはいえ、感染によって山東サッカー部最大の目標である県総体に出場できないなんて事態になったら大変です。感染防止に引き続き努めてまいります。

1年生はマネージャー1名を含めて、11名が入部してくれました。1年の皆さん、歓迎します！ 入部した以上、辞めずに頑張れ！！

地区総体4位で県総体の切符をつかむ

地区総体の前哨戦である村山地区リーグ(Mリーグ)がGWに行われました。山東にとってはこれがシーズン開幕戦。GW初日の5月1日(土)が第1戦、3日が第2戦、その結果次第で5日が第3戦となる。正直な話、Mリーグでのシーズン開幕は避けたかった。だって、Mリーグは地区総体につながる大会であり、当然、県総体、IHにもつながる大会。例年は、Yリーグの試合を3、4試合してから、満を持してMリーグに臨むことができたが、今年はこのとっても大切な試合からいきなりシーズンが始まる。でも、この事情はどのチームも同じ。

山東は山本学園と山形学院と同じブロック。ここで1位になれば、まずは県総体の切符をつかんだ上で地区総体の決勝トーナメントに進むことができる。もちろんそれを目指す。

5月1日の相手は山本学園。シード校を除いたMリーグ参加チームの中で、Yリーグで2部(Y2)に在籍しているのは山東と山本だけ(他はY3)。「なんでY2の2チームが

¹ 4月29日に開幕したリーグもありましたが、山東の在籍しているY2Aは4月29日に試合がなかったため、Y2Aの開幕は5月15日からとなりました。

わざわざ（三つあるブロックのうち）同じブロックなんだ」という言葉をぐっと飲みこむ²。これまで地区大会であっさり負けすぎて、地区のポッド順が低いからこうなる。自業自得。会場は山形明正の人工芝。明正さんは、Mリーグ免除校ながら、Mリーグの全日程で会場を提供してくださった（しかも、駐車場の案内などピッチ以外の人員も配置してくださいましたし、記録や担架などの本部業務もしてくださいました）。本当にありがとうございました。

この日天気は雨模様。でも人工芝なので、この程度の雨はへっちゃら。**清野総監督（後援会名誉会長）、後藤報道局長³**もシーズン開幕を待ち望んでいたとばかりに、会場にお越しになる。スタメンでは、昨シーズンとの大きく違う点として、右SBに「**宴会部長**」**3年オニコシ**、FWに「**兄弟のしんがり**」**1年マサツナ**が名を連ねる。実は、試合2、3日前の段階でもオニコシのSBはイメージになかった（SHのイメージは当然あった）が、**高橋コーキ**や3年生部員との話し合いにより決断。試合が始まると、どっちつかずな雑な展開ではあるものの、若干山東優勢。ただ、展開上の優勢を点差につなげられるかどうかかわからない。そんなもどかしい雰囲気を吹き飛ばしたのは、セットプレー。前半半ば、オニコシのインスイングの左CK⁴をファーで2年SH**ナナちゃんことナナミ**が頭で合わせて、山東先制！ オニちゃん、あんなボール蹴れたんだね！！ そして、その先制から間を置かず、**3年FW 自称「山の神」ダイキ**が深い位置で上げたセンターリングを**2年ボランキ シュンスケ**が目ざとくニアで合わせて追加点。これでグッと楽になりました。後半は攻められる時間帯もありましたが、相手ゴール前でうまくつながった攻撃を最後はダイキが合わせて、3点目ゲット。結局3-0で山東の快勝となる。山東が全体的に上回っていましたが、この試合、特にマサツナの鮮烈デビューだったと思う。スピードあるし、何より攻守にわたり頑張る。入学段階でのパフォーマンスは、OBの二人の兄タカヒラとヒラマサをしのぐ。そんな評価を下していたら、**タカヒラが同期のOBババとともに応援に来ていた！** まあタカヒラくん、君より上って言われてもいいじゃないか、弟の高評価を喜びたまえ。そういえば、マサツナは、タカヒラやヒラマサと顔つきや体つき似ているが、彼らより体も顔もほっそりしており、同期のキクちゃんの方に似ている。そう、これからはキクちゃんの弟と思うことにします（そうすると、そんなに褒めなくてよくなる）。

5月3日の相手は山形学院。山形学院は前日の2日に山本と対戦し、1-0で勝利している。とすると、山東は引き分け以上でこのブロック1位が決まる。もちろん勝ちを目指すのが、何がなんでも勝ちを目指すのではない。この試合、**膝の靭帯損傷からやっと復帰した3年ショーマ**が先発。ショーマ、これまでよく辛抱したね！ さて、試合は山東優勢。しかし、決定機はつかめず。山形学院は重心が後ろにかかっており、守備が厚い。とはいえ、スキルとアイデアがあればこじ開けることも不可能ではないが、アウトサイドやインサイドをpenetrateするような攻撃ができず。相手にシュートをほぼ打たせていない優勢の展開ながら、1点は遠く。といっても、決定機を外してスコアレスというより、決定機を作ることができずスコアレス。ショーマの復帰だけが好材料といった試合ながら、ス

² と言って、ここで憂さ晴らししてます。

³ 1年生の部員・保護者の皆様、山形東高校サッカーOB会HPを検索してみてください。このHPを作成管理してくださっているのが、後藤報道局長です。その素晴らしさ、日本でも有数のHPと思います。

⁴ 山東が相手ゴールを見て左からのCKを右足で蹴ると、内側に巻く形でボールが飛びがちなので、相手ゴールに近づく軌道になります。これをインスイングと呼びます。

コアレスドローで何とか県総体の切符を手に入れる。**近年、県総体で勝つより以前に、そもそも県総体に出場できないかもしれない不安を冬の間感じてきました**が、まずはホッとしました。これで、5月8日（土）、9日（日）の地区総体では、県総体の切符をつかんだチーム同士の決勝トーナメントを戦うことができる。

5月8日（土）の決勝トーナメント初戦の相手は、山形明正。近年、関東からも選手を獲得しており、県内出身選手と切磋琢磨する環境により選手層が厚い。昨年はコロナ禍により県リーグが数節しか行われませんでした。昨年フルに戦っていたら、ほぼ間違いなく明正がY1に昇格したでしょう。山東とのスキルの差は明白。よってこの試合、重心を後ろに下げて、ミドルサード⁵でブロックを作る策に出してみる。

会場は山形市球技場。清野総監督と後藤さんは当然として、**清野さんと同期の工藤先輩**もいらしてくださった。この「いつものお三方」がそろい踏み。

試合が始まると、山東はブロックを作って連動した守備をすることで精一杯。明正は、ドリブルやパスでどんどん攻め込んでくる。「こりゃ持ちこたえられないな〜。」これが試合開始10分くらいでの正直な感想。実際、ゴール前での軽い対応もあり、相手の個のスキルから得点を許し、前半を0-1で折り返す。ただ、試合内容からすれば、1点差での折り返しは御の字。選手はよく粘って守った前半だった。

後半はシステムを4-4-2から3-4-3（守備時は5-4-1）に切り替えてみる。これも対外試合で経験を積んでいるわけではないから「ぶっつけ本番」ですが、山東生の戦術的な対応力に賭けてみる。このシステム変更（とそれに応じた選手交代）が功を奏した。前半と打って変わって「危ないシーン」が減った。良い守備ができてくると良い攻撃につながるのサッカーというもの。ボールを相手陣内に運び、右CKを得る。「CKを得ることを目指すのではなく、まずはゴールを目指せよ」と思わないでもない攻撃。すると、今度は**オニコシ**のアウトスイングのCKが本当に素晴らしい弧を描いてファーに流れた。インスイングで素晴らしいボールはままだ見るが、アウトスイングの素晴らしいボールは珍しい⁶。そのボールを、相手との「押し合い」に勝った**ダイキ**が「浴びせ倒し」のようなダイビングヘッド（本人自称）でうまく合わせて、山東同点弾。守備中心のチームが粘っているうちに少ないチャンスをもものにする典型のような試合展開。そうしていると、今度は矢のようなカウンターから、途中出場の**2年右SB ミズキ**がワンタッチでのセンターリング。ベンチからは「(シュートを) 打て」などの声が飛んでいましたが、ミズキは冷静にグラウンダーでセンターリング、それを**シュンスケ**がスルーしてゴール前で**ナナちゃん**が合わせ、**山東逆転！！** 良いんでしょうか、こんな展開。最後、明正攻撃陣の集中砲火を浴びるが、「終わった」と観念した相手のシュートを**GK コーセー**が足に当てるなどして何とか守り切り、結局2-1で逆転勝利。

この試合、**2年CB カナタ**と**タリョウ**、**ボラン千のグッチ**のディフェンス力が光りましたが、攻撃では「われらが主将」**3年FW テグチッチ**の攻守にわたる走力がチームを助け

⁵ ピッチを3分割したときに、相手ゴールを含む3分の1はアタッキングサード、自ゴールを含む3分の1はディフェンシブサード（ディフェンディングサード）、その真ん中の3分の1をミドルサードと呼びます。

⁶ アウトスイングでカーブがかかると、ゴールラインを割ることが多い。ゴールラインを割らず、カーブがかかって良いところに飛ぶボールは、なかなか蹴れない。

ました。デグチが一生懸命走るから、山東の薄い攻撃も何とかつながっていた。これで地区ベスト8進出。そして、コロナによって出場できないチームが出たため、**この日の2試合目は不戦勝**。ということで、ベスト4進出。運もあります、とにかく出来すぎですね。

5月9日(日)は準決勝の山形城北戦。正直山東の力不足もあり、どのチームと当たっても苦しい戦いとなるが、城北は明正と同様、近年戦力の充実が著しい。強い選手、うまい選手、速い選手のバランスがいい。この試合も、ディフェンシブな戦いを覚悟する。システムは今一度343。選択肢の一つに育てたい。とまあ、この試合、ここで試合を報告したいのですが、報告すべきことは思い出せません。圧倒的にボールを保持され、圧倒的に攻められる。何とか粘りに粘って、PKの1失点に抑え、0-1で負けた、頑張ったけどカウンターもセットプレーも何もできずに終わった、というだけ。そうそう、与えたPKは、左足でクリアすればいいボールを利き足の右に来るまで待って足を振ったら、相手の体が間に合っちゃってボールではなく相手を蹴っちゃった、それでファール。このような、**利き足にこだわってフレーが失敗するシーン、山東の選手に本当に多い**です。自分の得意な方ではなく、相手のいない方に、自分の体で隠せる方にボールを持っていかなければならない！ **自分の都合を優先してはならない、相手あってのサッカー**なんです。今回の失敗を良い教訓にしなければならない。そうそう、この試合、途中交代で**1年生ユーゲン**を出場させたら、高校生の当りに吹っ飛んで、右の手首を骨折してしまった……。ユーゲン、復帰待ってるぜ。

この日、3位決定戦もあった。相手は日大山形。この試合、城北戦も4分の1、GKコーセーを試合途中で着替えさせて、FWで出場させた(二刀流!)が、3位決定戦では**コーセーをFWで先発**。明正戦と城北戦で「粘りの山東」は見せることができたが、ヘビー級チャンピオンの日大山形のメガトンパンチに耐えられるか。とまあ、かつこいいこと書きましたが、この試合も報告すべきことは思い出せません。かなり攻められた、そして、またもや途中出場の**1年ヤマト**が空中戦で相手につぶされて顔面をピッチに強打。鼻血が出て、そのまま退場。脳震とうになってなかったのがせめてもの救い。コーセーの競り合いの強さを生かして少し攻めることができたが、**2年GKジャッカル**は経験不足を露呈。公式戦でなければ得られない経験があります。結局0-3の完敗。この試合、**3年MFトヨバチ**は、途中出場ながら競り合いでもドリブル・パスでも存在感を発揮し、Mリーグで下げた評価を回復させました。**3年MFソーゴ**はいつも怠らず備えており、出場時間こそ短かったものの自分の良さの出どころをわきまえたプレーを見せた。

結局、**地区総体は望外の4位フィニッシュ**。準々決勝の不戦勝が大きかったものの、「自分たち、粘りある戦い出来るじゃん」と自信を深めた。昨年のふがいない戦いしか知らない保護者、OBの皆様は、ずいぶんと成長した姿を感じ取っていただけただけなのではないでしょうか。ただ、もちろん満足していません。**もっと自立したサッカー選手を目指して、冬の間トレーニングしてきました。正直な話、全然出せていません**。ここから県総体まで、いきなりチーム力を上げることはできないでしょうが、少しは上積みをはかり、臨みたいと思います。応援ありがとうございます。次の公式戦は、先の記載の通り、5月の県リーグが延期になったことにより、**5月29日の県総体1回戦**となります。5月13日の理事会における抽選により、相手が**米沢興譲館(@山形市球技場)**となりました。応援よろしくお願いたします。

サッカー一部進学実績公開！

今年もサッカー部員（現浪合わせ）の進学先を公開します。ここ数年憤慨していることに、どうやら塾関係者を主として、山東の運動部に対して、「〇〇部に入ったら勉強できなくなるぞ」などの情報を流している模様。サッカー部はその〇〇の筆頭といったところ。「勉強が大切な山東で〇〇部に入ったら終わり」などの言葉を流し、勉強中心の生活をさせ塾にも通わせる、といったところか。そうしたデマを真に受けてしまう生徒・保護者もいるのが事実。サッカー部への入部を迷った生徒（マネージャー希望）の親が、「大学諦めるの！」と娘に迫り、入部を止めさせたなんてことも〇年前にありました。いわゆる**風評被害に合っている**のです。「だったら、**サッカー部員がいかにか文武両道を実践しているか**、進学実績を公開して、風評に対抗してやろう」との思いから、今年も公開。

令和3年度入試結果 山東サッカー部卒業生 進学先一覧（現浪合わせ）

【国公立】

東北大 工 1名
東北大 薬 1名
山形大 工 1名
福島大 経済 1名
筑波大 体育 1名
横浜市立大 医 1名
新潟大 工 1名
金沢大 法 1名
奈良教育大 教育 1名

【私立】

東北医科薬科大 医 1名
明治大 経営 1名
中央大 法 1名
東京理科大 理工 1名

【浪人】

8名

いかがですか。今年は、昨年同様浪人生の多さが気がかりですが、なんとといっても3浪で東北薬の合格を勝ち取った卒業生が注目に値する。山東サッカー部諸君、誤った風評をしっかりと跳ね除け、「国家の運命雄雄しく負わん」（校歌3番）という王道を歩み続けましょう。そのためには**現役生諸君、しっかり勉強もやりなさいね。**